

やってみませんか？～課題解決を目指す「熟議」の進め方～

社会教育課

平成30年11月14日(水)に開催した「『地域と学校の連携・協働』関係者等研修」で、宮城県の尚絅学院大学エクステンションセンター長である松田道雄先生を講師に迎え、地域学校協働活動ワークショップを行いました。

学校における課題解決に向けた熟議の進め方について、具体例とともに紹介します。

1 グループ(5人程度)をつくり、 仮想のまちの学校の課題を出し合う。

- 異なる立場の人で、グループ編成
(例)教職員、地域学校協働活動推進員、PTA、
行政担当者、学校運営協議会委員
- 子供たちに身につけさせたい力を明確にする

2 課題解決のためにできる地域学校協働 活動について熟議。5コマ・カミシバイ にまとめる。

- 活動をつくる3つの視点(場所・機会・性質)で考える 3年後も続けられる仕組み、活動
- A3用紙を巨大な付箋紙に見立てて、みんなが見える字の大きさに！ みんなで創りあげる
- 1コマごとの協議の視点を明確に！
色用紙を活用し、視覚的にも分かりやすく
- 1コマごとに時間を区切り、限られた時間に意見を述べ合う 時間の有効活用
- 発散する話し合いでなく、活動の具現化に集約していく できる方法を探す

3 各グループで考えた活動を発表し、 参加者全体でアイデアを共有する。

- 各グループの発表から、今後の取組に具体的に何が活かせるかを考える



短時間でも、同じ思い(目標)のある人が集まると、課題解決に向けて話が盛り上がることを体験できました。地域でも活用します。

【研修会で出された具体例と活動の様子】

【出された課題】

- ・地域の人との交流機会が少ない
- ・コミュニケーション力が足りない
- ・地域のことをもっと知ってほしい



活動について熟議しながらカミシバイを作成

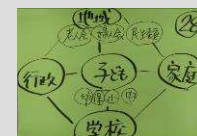
1コマ目
具体的活動名
(タイトル)

紙芝居を作ろう!

2コマ目
内容
(簡潔に)

・地域の著名人の
↓聞取りをする
・昔物語をやる
・お話を聞かせ

3コマ目
人のつながり
(図で)



4コマ目
実施のポイント
(要点)

小中から連携し作る
家庭の伝話(聞取り)
地域のつながりを作る

5コマ目
期待される成果
(地域と学校)

・ふるさとを愛する
・コミュニケーション
・自己有用感



熟議の振り返り
アイデアの共有



できない理由を探すのではなく、実現するためのアイデアを出し合い、考えることが大切です。

